

認知症で その人らしさは失われてしまうのか ～アルツハイマー型認知症の母と脳科学者の私～

要申込
定員
100名

講師

脳科学者 恩巣絢子 先生

日時

令和8年1月24日(土)

午後1時30分～

会場

田村市役所107多目的ホール

【申込み・問合せ 田村市保健福祉部高齢福祉課 82-1115】

田村市制施行20周年記念事業 認知症セミナー



恩蔵絢子（おんぞうあやこ）

1979年、神奈川県生まれ。脳科学者。専門は自意識と感情。

2007年、東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻後期博士課程修了(学術博士)。

2025年現在、東京大学大学院総合文化研究科特任研究員。金城学院大学、早稲田大学、日本女子大学非常勤講師。

著書に『脳科学者の母が、認知症になる』（河出書房新社）、共著に『なぜ、認知症の人は家に帰りたがるのか』（永島徹氏との共著、中央法規出版）、『化粧する脳』（茂木健一郎との共著、集英社）、訳書に『ドーパミン中毒』（新潮社）、『生きがい』（新潮社）、『顔の科学』（PHP研究所）がある。

同居する母親が、2015年にアルツハイマー型認知症と診断され、以来娘として生活の中で表れる認知症の症状に向き合ってきた。一方で母親を脳科学者として客観的に分析することで、医者/患者、科学者/被験者という立場で研究するのとは違った認知症の理解を持つにいたり、情報を発信している。2023年1月には母親との家の時間に密着したドキュメンタリー、NHKスペシャル『認知症の母と脳科学者の私』が放映された。現在は、重度認知症のある人の豊かな感情と高齢者の創造性に強く関心を持つ。